多摩市の見どころ②富士山

多摩市指定有形文化財の相沢伴主『調布玉川惣畫圖』には富士山が天高くそびえていますが、多摩市内では秋から春にかけて随所で富士山が見えます。自宅から見える人もいますが、道すがら見える富士山には感動し、皆の話題が弾みます。

多摩市内からの自慢の富士山景を、ここに一挙紹介します。誰もが大好きな富士山への大観眺望が、多摩ニュータウン開発によっても生み出されています。それが、多摩センター南方の宝野公園から奈良原公園にかけての富士見通りで、今や新名所と化しつつあり、特に桜並木が彩られる時期は圧巻です。近くの鶴牧東公園には、残土処理と芝張りによって人造の「鶴牧富士（若草山）」が出現しています。

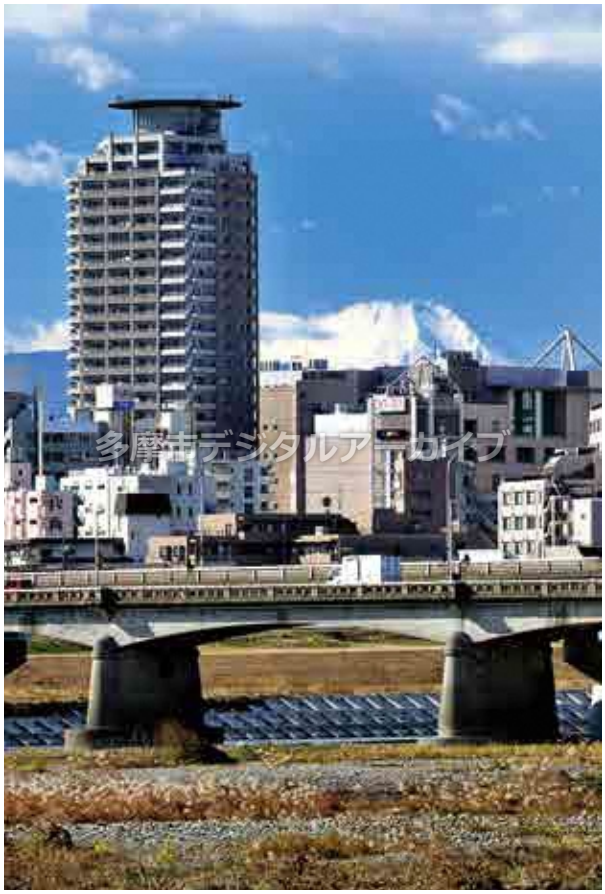
（成瀬恵宏）

相沢伴主『調布玉川惣畫圖』の富士山

多摩市域から見える富士山の方角
西南23.5～28.5度（国土地理院地図を下図に作成）

朝、都営聖ヶ丘団地越しに

都立桜ヶ丘公園より　2021（令和3）年



関戸橋、ヴィータ・コミューネと富士山
2007(平成19)年

宝野公園より富士山　2008(平成20)年

宝野公園より富士山　2008(平成20)年

多摩市の見どころ③街路樹

最初に多摩市に街路樹が植えられたのは1962（昭和37）年5月のことで、桜ヶ丘団地が建設され、聖蹟桜ヶ丘駅より桜ヶ丘団地までの道路が整備され、サクラの街路樹が植栽されました。その後、多摩ニュータウン区域の街路樹は、植栽基本計画委員会により樹種決定され、植栽形式は原則的にベルト状植栽とされ、街路樹種は、高木としてサクラ類、トチノキ、ケヤキ、ハナミズキ、ユリノキ、メタセコイアなどの落葉樹、クスノキ、シラカシなどの常緑樹が、合計約16,000本植栽されています。低木はサツキ、クルメツツジ、ドウダンツツジなどが植栽され、新緑や紅葉など、季節ごとの景色を楽しむことができます。（大石武朗）

多摩市全域街路樹種図
データは、2010（平成22）年7月現在のもの

ニュータウン通り（イチョウ並木）
2016（平成28）年11月

鎌倉街道（モミジバスズカケノキ並木）
1990年代（平成2～11年）

多摩市では、約16,000本の街路樹を管理しており、サクラやケヤキ、シラカシなど多くの種類が植栽されています。それらの街路樹は、豊かなみどりを形成し、新緑や紅葉など、季節ごとに変化する景色を見ながら街歩きを楽しむことができます。

植栽から約40年が経過し、他自治体と比べても多くのみどりを保有していますが、現在、「多摩市街路樹よくなるプラン改定版」（2019（平成31）年3月）で定めた管理方針により、街路樹を健全な状態に導き、より魅力のあるものにしていこうと取り組んでいます。（多摩市都市整備部道路交通課）

上之根大通り（モミジバフウ並木）
2016（平成28）年11月

落合けやき通り（ケヤキ・ツツジ並木）
1987（昭和62）年5月

メタセコイア通り　2006（平成18）年11月

乞田川沿いのサクラ　2018（平成30）年

多摩市の見どころ④橋と遊歩道

多摩ニュータウン計画は、近隣住区理論に基づいて街づくりされました。一つの近隣住区は人口約8,000人、近隣公園1か所、街区公園4か所、2小学校、1中学校、1近隣センターを基本としました。また、「遊歩道」（道路法の歩行者・自転車専用道路）を全面的に導入することにより、歩行者交通と自転車交通が自動車交通と分離されています。

多摩ニュータウンの元の地形は、東西方向の主尾根から北に向けて多くの支尾根がフィンガー状に伸びて、小さな谷戸はそれぞれ大栗川、乞田川の大きな谷戸に続いている地形でした。支尾根の面積は約60 ～ 120haで、それらの各支尾根が1または2の近隣住区として計画されました。それぞれの谷戸は

多摩市デジタルアーカイブ

バルコニー橋（多2·2·6-1号橋）

多摩市デジタルアーカイブ

貝取大通りとバルコニー橋
1980年代（昭和55～平成元年）

昔からの集落、水田、畑等が存在していました。谷戸は、多摩ニュータウン計画により、土地区画整理事業により整備され、雑木林を主体とする尾根の大部分は新住事業区域として整備されました。

隣り合う支尾根部分の新住事業区域とを相互に連絡し、谷戸に計画された幹線道路を立体的に横断できるように遊歩道の橋梁が多く架けられています。その一つの事例が貝取地区と豊ヶ丘地区の間にかかるバルコニー橋です。また、バルコニー橋は区画整理事業区域と新住事業区域との境界を示す目印を兼ねたランドマーク的役割を持った橋としてデザインされました。（大石武朗）

多摩市デジタルアーカイブ

鎌倉街道上空より貝取・豊ヶ丘　1995（平成7）年
一般道路と遊歩道が別途ネットワークを形成している。

多摩市デジタルアーカイブ

永山団地の遊歩道　1973（昭和48）年7月

多摩市デジタルアーカイブ

豊ヶ丘スクールロード　1980年代（昭和55～平成元年）

多摩市の見どころ⑤建物

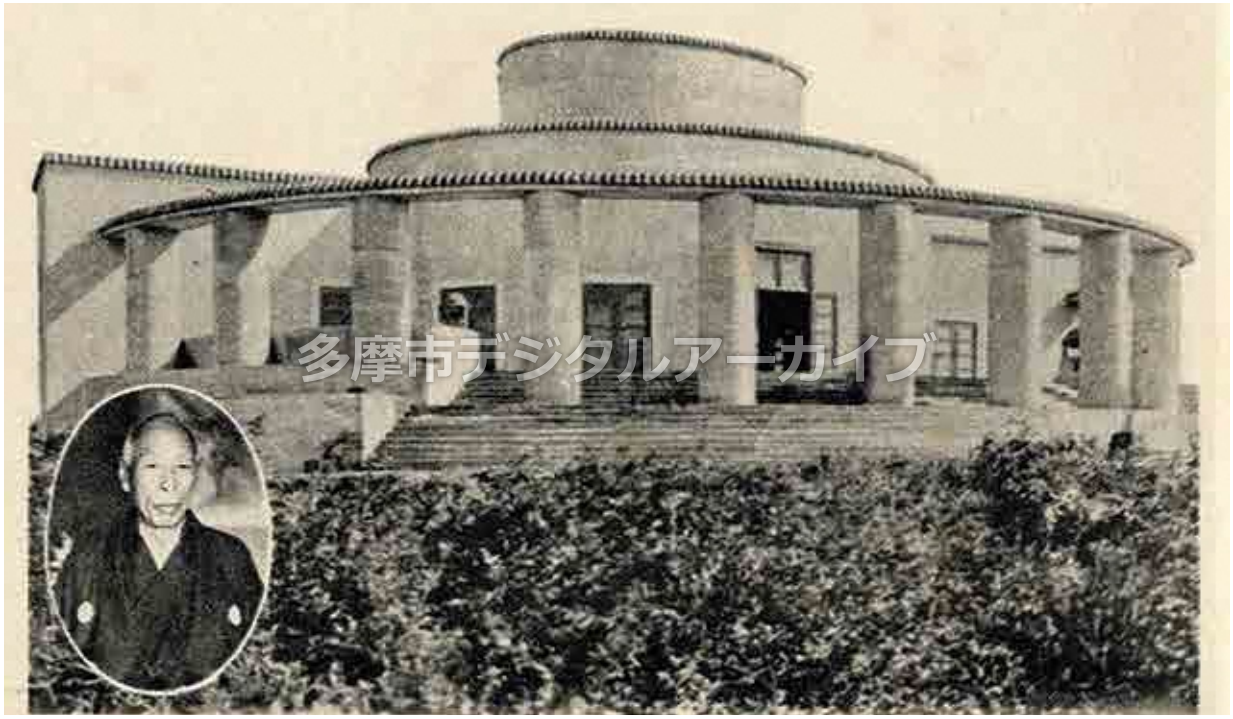
多摩市の一番の見どころは、イギリスのニュータウンをモデルにして建設された大規模な住宅団地です。色々な住戸や住棟のタイプがありますが、ここでは、親しみのもてる街並みを目指してデザインされた「プラスワン住宅」が良いでしょう。また、多摩ニュータウンの建設と同時期に計画された「パルテノン多摩」も見どころです。市民のための文化・芸術の複合施設で、建物の名称を市民から募集をして決まりました。学校建築では、市民参加で建設された「多摩市立多摩第一小学校」が見どころです。児童のスケールに合わせた低層校舎のオープンスクールです。

プラスワン住宅
（プロムナード多摩中央）
【設計】住宅・都市整備公団、坂倉建築設計事務所
【構造】鉄筋コンクリート構造
【築年】1987（昭和62）年
【場所】多摩センター駅から徒歩約10分
歩行者専用道路沿いに建つ高層住棟の圧迫感をやわらげ、街並みのにぎわいを創り出すため、お店のような住宅を道路に面して設けた。

パルテノン多摩
【設計】曽根幸一
【構造】鉄筋コンクリート構造
【築年】1987（昭和62）年
※2020～2021（令和2～3）年大規模改修
【場所】多摩センター駅から徒歩約5分
大・小ホール、ミュージアム、こどもひろば、市民の創意を高める諸室を設けた複合文化施設である。

多摩市立多摩第一小学校
【設計】船越徹
【構造】鉄筋コンクリート構造、一部鉄骨構造
【築年】2009（平成21）年
【場所】多摩市関戸3-2-23
小学校の校舎の建て替えにあたり、市民、PTA、児童、教職員によるワークショップにより設計を進めた。多摩川沿いの景観に配慮したオープンスクールである。

多摩市内で見ることのできる近代建築では、昭和初期に建てられた「旧多摩聖蹟記念館」が見どころです。この建物は多摩市民が誇れる近代化遺産です。多摩地域の民家建築では、多摩の農村風景と生活を知ることのできる「川井家住宅」が周りの環境を含めて見どころです。多摩中央公園に移築されている「旧富澤家住宅」では名主住宅の間取りを見ることができます。また、一本杉公園に市指定文化財の民家などを見ることができます。ガイドマップとして『多摩市の文化財案内』（多摩市教育委員会）が良いでしょう。（糸井孝雄）



旧多摩聖蹟記念館（多摩市指定有形文化財）
【設計】関根要太郎　【構造】鉄筋コンクリート構造　【築年】1930（昭和5）年　【場所】東京都立桜ヶ丘公園内
明治天皇を顕彰するために明治天皇騎馬像を展示した施設で、ヨーロッパの建築様式の影響を受けた昭和初期の近代建築である。

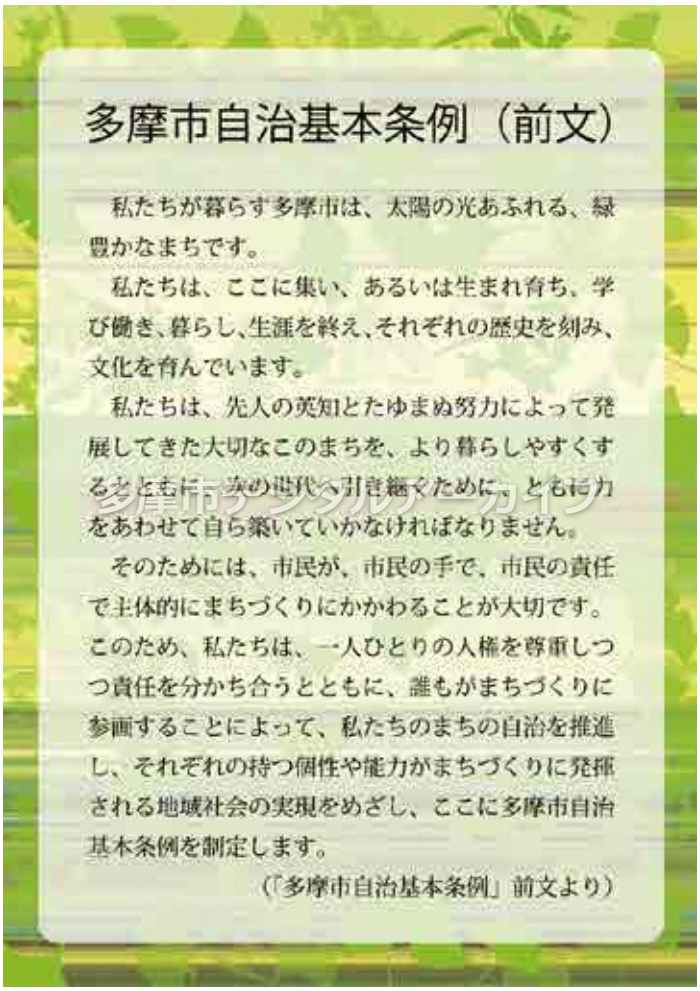
川井家住宅（国登録有形文化財）
【構造】木造
【築年】1885（明治18）年頃
【場所】鶴牧西公園内
屋根裏に蚕室がある多摩地域の典型的な農村住宅で、敷地内に多摩市指定天然記念物のシダレザクラがある。

旧富澤家住宅
【構造】木造
【築年】18世紀後半
【場所】多摩中央公園内
1881（明治14）年明治天皇がウサギ狩りに行幸した時以来、行在所として使用された。入母屋造りの屋根のついた式台付き玄関のある由緒ある建物で中央公園内に移築保存された。

自治基本条例の制定

2004（平成16）年8月1日に施行した「多摩市自治基本条例」は、私たちが多摩市のまちづくり（自治）を進めていくための最も基本的な考え方（理念）と、それを実現するための情報の共有、参画・協働、住民投票、自治推進委員会設置といった具体的な取り組み・方法（行動原則）を定めた市の最高規範です。

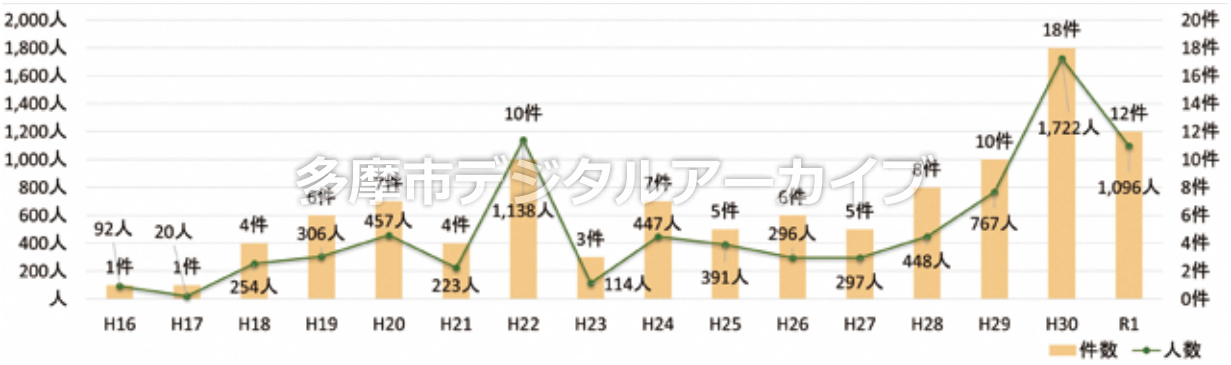
計画の策定、実施および評価の各段階で、ワークショップへの参加、パブリックコメントでの意見表明など、事案に応じて必要な方法で市民の参画する機会を設けています。



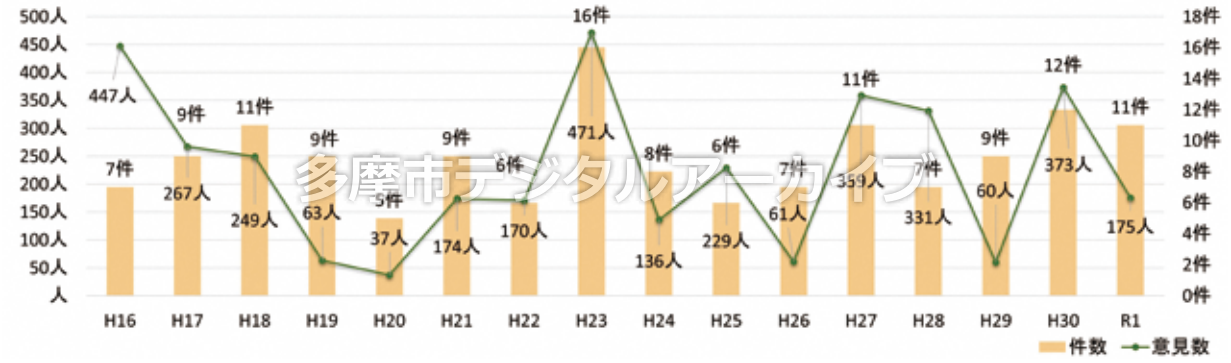
多摩市自治基本条例（前文）

開催されたワークショップの様子
2017（平成29）年

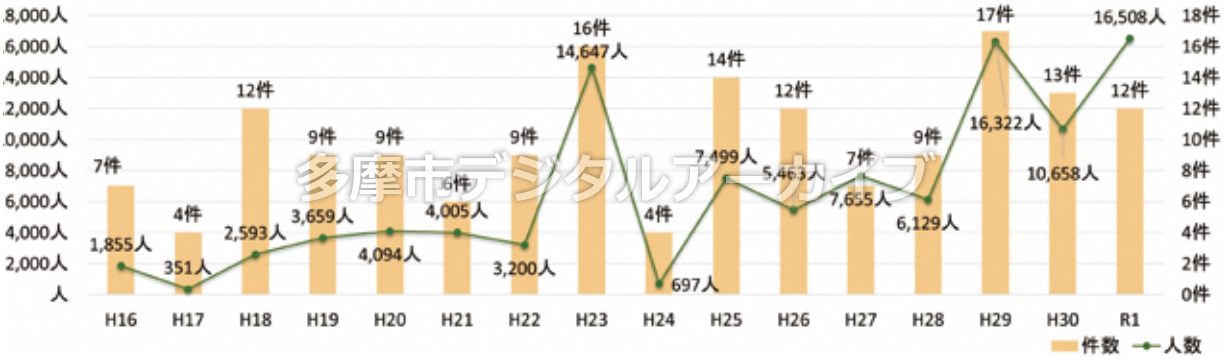
この条例は3年4ヶ月をかけて市民と、行政と、議会がそれぞれに力を出し合って生まれました。2000（平成12）年11月に市の呼びかけに応じた市民を中心に「多摩市市民自治基本条例をつくる会」を結成して市との役割分担などを決めたパートナーシップ協定を締結し、1年半、1,300人以上の参加者を得て「多摩市市民自治基本条例案提言書」を提出しました。市は市職員85%の参加する研修を経て、行政素案を発表し、再度市民と意見交換が交わされました。議会では3か月をかけて継続審議をおこなった後、2004（平成16）年3月議会で可決されました。（多摩市企画政策部企画課）



自治基本条例が制定された2004（平成16）年以降、市が主催したワークショップの件数およびその参加者数



自治基本条例が制定された2004（平成16）年以降のパブリックコメント実施件数とその意見数



自治基本条例が制定された2004（平成16）年以降のアンケート調査実施件数とその回答者数

多摩ニュータウンの再生

多摩市は、2013（平成25）年7月、学識経験者、東京都、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）、民間企業、多摩市により構成される「多摩ニュータウン再生検討会議」を設置し、専門的な見地から、まちの再生に向けた方向性や具体的な取り組み、魅力向上などについて検討を進めました。その後、2016（平成28）年3月には「多摩市ニュータウン再生方針」を策定し、さらに2018（平成30）年2月には2040年代のまちの将来像を示した「多摩ニュータウン　リ・デザイン　諏訪・永山まちづくり計画」を策定しました。これを踏まえて、2021（令和2）年2月には、「全体計画～多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ～」が提言されました。また、平成25年度より、多摩ニュータウン再生プロジェクトシンポジウムを開催し、市民と取り組みの進捗状況を共有してきました。

（多摩市都市整備部都市計画課）

「多摩ニュータウン　リ・デザイン　諏訪・永山まちづくり計画」
初期入居地区である諏訪・永山地区の2040年代の都市構造を示し、再生に向けた取り組みの促進を図るために策定した。

多摩ニュータウン再生プロジェクト
第7回シンポジウムの様子
2020（令和2）年2月

多摩ニュータウン再生プロジェクト ロゴマーク

2015（平成27）年に、市民、行政、企業・団体等が連携・協力して、これからの多摩ニュータウンを共に担っていく機運の醸成を目的に、多摩ニュータウン再生プロジェクトのロゴマークが作成された（水野安奈（多摩美術大学）作成）。
ロゴマークでは、昔からある自然の豊かさを基盤に、大きな芽はこれから育っていく街を、そして、そこから成長し続ける利便性、街に暮らす人々の穏やかで楽しげな雰囲気を表現している。

多摩ニュータウンの魅力実感イベントポスター　2019（令和元）年
公園や遊歩道、リノベーションされた団地といった多摩ニュータウンの魅力や、郊外での自分らしい暮らし方を多摩市以外の人に実感してもらうための「魅力実感イベント」を、官民連携して開催。

ニュータウン再生関連年表

年月日	できごと
平成25.7	「多摩ニュータウン再生検討会議」設置
平成26.2.12	多摩ニュータウン再生プロジェクト第１回シンポジウム開催（以降毎年２月に開催）
平成27.10	多摩ニュータウン再生検討会議による「多摩ニュータウン再生方針」策定
平成28.3	多摩市による「多摩市ニュータウン再生方針」策定
5	「多摩市ニュータウン再生推進会議」設置
平成30.2	「多摩ニュータウン　リ・デザイン　諏訪・永山まちづくり計画」策定
平成31.2	市民ワークショップによる「永山駅再構築ビジョン～みんなで描こう将来の永山駅～」とりまとめ
令和元.11	都営住宅建替え第１期事業として学校跡地を種地とした「都営永山三丁目団地」入居開始
令和2.2	多摩市ニュータウン再生推進会議より「多摩ニュータウン再生への道しるべ　全体計画～多摩ニュータウン再生で描く将来都市構造イメージ～」を提言としてとりまとめ
令和3.7	都営住宅建替え第２期事業として都有地を種地として「都営中沢一丁目団地」入居開始

公共施設の再整備

旧西落合中学校跡地を暫定利用している図書館本館は、多摩中央公園内へ移転し、2023（令和5）年5月に「中央図書館」としてオープンします。

中央図書館は公園とレンガ坂に調和した4階建て（地上2階・地下2階）で、地上の2階と1階が利用者用フロアです。公園の大池の高さにあたる2階は、暮らしに身近なテーマの本や雑誌をそろえ、親子やグループ学習をしたい中・高生の利用なども想定した、節度あるにぎやかさと開放感のあるフロアです。レンガ坂の高さにあたる1階は、ワンストップで利用できる幅広い分野の資料をそろえ、静寂読書室や個人研究室、広めの閲覧デスクなど、読書や調べものにも最適なフロアです。対面朗読室や録音室

多摩市デジタルアーカイブ

中央図書館外観鳥瞰イメージ図　2020（令和2）年作成

多摩市デジタルアーカイブ

中央図書館2階内観イメージ図
2020（令和2）年作成

など、視覚障がいの方向けのエリアも整備します。2階と1階をつなぐ大階段（ステッププラザ）にはエスカレーターも併設し、公園とまちをつなぎます。

パルテノン多摩は、1987（昭和62）年の開館から、多摩市の文化の拠点施設として、また多摩市の「シンボル」施設として存在してきました。2020（令和2）年からの大規模改修工事を契機に、公共ホールと博物館機能を持つ新しい時代の複合文化施設として、この先も文化芸術の振興や多摩センター地区の活性化に寄与していきます。また、多くの市民が集い、文化芸術を通した出会いや交流が生まれる「みんなの広場」となれるよう、市民のみなさまと新しいパルテノン多摩の実現を目指します。

（多摩市教育委員会教育部図書館、多摩市くらしと文化部文化・生涯学習推進課）

多摩市デジタルアーカイブ

中央図書館ステッププラザイメージ図
2020（令和2）年作成

多摩市デジタルアーカイブ

公園の園路から見た
中央図書館の外観イメージ図
2020（令和2）年作成

多摩市デジタルアーカイブ

新しいパルテノン多摩の2階ロビーイメージ図　2021（令和3）年作成

多摩市の ESD

多摩市では、2009（平成21）年から「2050年の大人づくり」をスローガンに、各学校の特色や地域性を生かしたESD（Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育）を推進してきました。ESDは、環境や貧困、人権や平和といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市子どもみらい会議　2020(令和2)年
未来の多摩市のために自分たちでできることを話し合い市民へ発信。

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市立愛和小学校「グリーンプロジェクト」
2017(平成29)年
学校林を人や動植物にとってよりよい「みんなの森」にする活動。

多摩市デジタルアーカイブ

ゴーヤ アクションTAMAポスター
2011(平成23)年作成
東日本大震災を契機に地球温暖化防止に向けた取り組みをスタート。

身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出す学習や活動です。毎年、ESDのまとめとして開催する「多摩市子どもみらい会議」では、子どもたちが各学校の取り組みを発表し合うとともに、市民へメッセージを発信しています。2020（令和2）年は「地域」をテーマに話し合い、メッセージ「地域や自然との関わりを大切にし、それを行動に移すことで、多摩市を住み続けられるまちにしよう」を発信しました。これからも各学校において、子どもたちが多摩市の未来を描き、「持続可能な社会の創り手」となることができるよう、ESDの充実と発展に取り組んでいきます。（多摩市教育部教育指導課）

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市立東落合小学校「朝のごみ出しボランティア」
2018（平成30）年
児童が登校途中に高齢者宅を訪問するボランティア活動。

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市立青陵中学校「商店街をちょっと楽しくするプロジェクト」 2019（令和元）年
物産展やフリーマーケットなど地元の商店街を活性化する活動。

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市立和田中学校「おもてなし5組カフェ」
2019（令和元）年
来校した地域の方々への感謝を伝える特別支援学級での交流活動。

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市ESDコンソーシアム 2019（令和元）年
地域や企業、大学などからなる子どもたちのESDを支える連合体。

多摩市の気候問題への取り組み ～気候非常事態宣言～

世界で様々な異常気象が観測され、猛暑や干ばつ等による甚大な被害が発生し、もはや気候変動ではなく気候危機であると言われています。

多摩市でも、2018（平成30）年夏の災害級の猛暑、2019（令和元）年には、これまで経験したことのない気象現象として強大化した台風第19号の襲来により、多摩川が氾濫直前まで水位が上昇し近隣住民2,000人以上が避難を余儀なくされました。

このような異常気象は地球温暖化が要因と考えられています。そのため、多摩市と多摩市議会は気候が危機的な状況にあることを全市民と共有し、地球温暖化対策に積極的に取り組むことを目的として、2020（令和2）年6月に多摩市気候非常事態宣言を表明しました。

宣言では2050（令和32）年までに二酸化炭素排出実質ゼロ、使い捨てプラスチックの削減、水とみどりの保全の推進を3つの柱として掲げ取り組みを始めています。（多摩市環境部環境政策課）

台風第19号接近時の多摩川　2019（令和元）年10月
台風第19号の影響で多摩川が氾濫直前まで水位が上昇した。

日本における年平均気温の経年変化
気象庁「気候変動監視レポート2020」

台風第19号接近時の避難所　2019（令和元）年10月
台風第19号の影響で多摩川の水位が上昇し、近隣の住民が避難を余儀なくされた。

多摩市気候非常事態宣言

気候変動は、私たち人類とすべての生き物にとって避けることのできない緊急事態です。

世界では、2015 年にパリで開かれた国連気候変動枠組条約締結国会議の約束事として、産業革命前と比べて平均気温の上昇を 2℃以内に抑えること、さらに 1.5℃に抑える努力をすることが掲げられています。
しかし、世界の平均気温は、産業革命前と比べてすでに 1.1℃上昇しています。

世界では、もはや「気候変動」ではなく、すべての生物にとって生存が危うい「気候危機」と表現されるようになり、これを防ぐためには、この 10 年の取組が重要であると言われています。
国内でも大型台風等による災害が繰り返し起こり、昨年は多摩市でも台風 19 号によって、市民のみなさんが避難を余儀なくされ、いままでどこか別の世界の出来事と思っていたことが、私たちの身のまわりでも起きはじめました。これからもさまざまな災害が拡大して起きるおそれがあると言われています。
これは温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化による影響で、すでに疑う余地のない状態です。

この問題を解決していくためには、温室効果ガスの最も大きな割合を占める二酸化炭素を排出しない社会にしていく必要があります。そのために、電気やガスなどのエネルギー使用の節約や、再生可能エネルギーへの転換を進めるとともに、使い捨てプラスチックの使用を削減し、資源の有効活用を図ることで、持続可能で地球に優しいライフスタイルを取り入れた社会に向かうよう取り組みます。
また、気候変動は生態系も脅かします。生態系を育む生物多様性が豊かであれば、気候変動による影響を緩和し、もとの自然環境に戻してくれる調節機能を持ちます。二酸化炭素を排出しない社会にしていくと同時に、生物多様性も保全していく必要があります。

この思いを実現していくためには、私たち一人ひとりがこの気候の危機を「自分のこと」として考え、全員で共有して、二酸化炭素の削減に取り組む必要があります。
私たち一人ひとりの取組は小さくても、市民全員の力が合わされば大きな成果を生み出します。

多摩市及び多摩市議会は、地球温暖化の対策に全力で取り組みます。そして、国連で採択された SDGs による持続可能な社会の実現のため、ここに気候非常事態であることを宣言します。

1.「気候危機」が迫っている事実を市民全員と共有し、2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指します。
2. 資源の有効活用を図り、使い捨てプラスチックの削減を推進します。
3. 生物多様性の大切さを共有し、その基盤となる水とみどりの保全を積極的に推進します。

多摩市気候非常事態宣言　2020(令和2)年6月

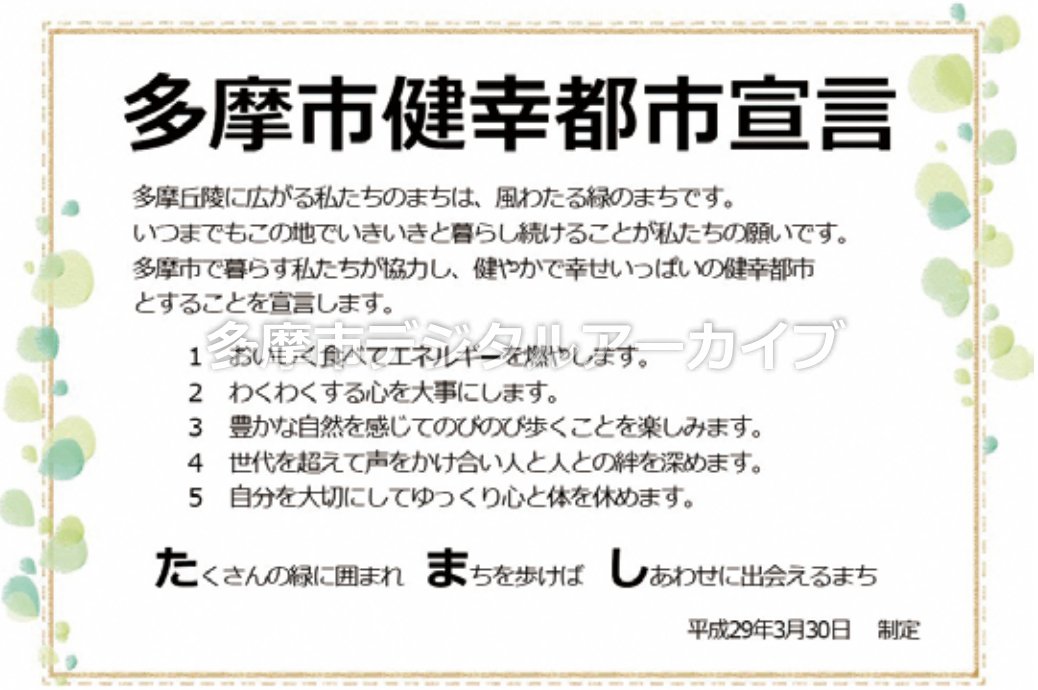
宣言署名式　2020(令和2)年6月
左:多摩市長　阿部裕行、右:多摩市議会議長　藤原マサノリ。

クールチョイス啓発誌
2020(令和2)年7月
気候危機を自分事として捉えてもらうため、市内全戸に配布した啓発冊子。

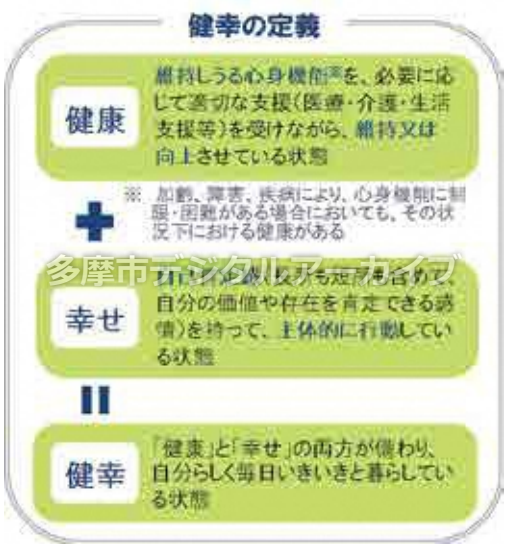
健幸（けんこう）まちづくりの推進

多摩市は、身体面での健康だけでなく、それぞれに生きがいを感じ、安全・安心に暮らすことができ、誰もが幸せを実感できるまちを目指し、健幸まちづくりを推進しています。

2015（平成27）年には、第五次多摩市総合計画・第２期基本計画において、３つの取り組みの方向性のうちの一つとして、「健幸都市（スマートウェルネスシティ）・多摩の創造」を掲げ、続く第３期基本計画（2019（令和元）年）では、「健幸まちづくりのさらなる推進」を計画全体の「基盤となる考え方」として掲げ、市をあげての取り組みをさらに展開しています。



多摩市健幸都市宣言　2017（平成29）年3月
市民、議会、行政が一体となって制定した市民の行動宣言。



健幸の定義　2017（平成29）年3月
「多摩市健幸まちづくり基本方針」において示された健幸の定義を図式化。

健幸マーク　2017（平成29）年7月
「多摩市健幸都市宣言」に描かれた健幸都市をイメージした、健幸まちづくりのシンボルマーク。

多摩市デジタルアーカイブ

この間、「健幸まちづくり政策監」を推進役として、市民、議会、行政が一体となって、市民の行動宣言である「多摩市健幸都市宣言」を制定し、「多摩市健幸まちづくり基本方針」に基づいて、健幸的な生活の獲得支援、暮らしの安全・安心、世代の多様性を増やすことを目的に、健幸Spotの設置、ライフウェルネス検定、健幸まちづくりシンポジウムの実施など、様々な世代の興味関心を惹きつける健幸まちづくりの取り組みを進めています。（多摩市健康福祉部健幸まちづくり推進室）

学ぶ気持ちを
いつまでも！

ライフウェルネス検定　2020（令和2）年1月
老いや終末期に関する知識を「明るく楽しく」学ぶ機会を、検定という手法で提供。

おでかけのついでに
健康チェック

健幸Spot　2018（平成30）年6月
身近な場所で筋肉量と血圧を計測でき、健康情報や地域活動情報などを入手できる「健幸Spot」。

コロナ禍で
オンラインイベント開催

健幸まちづくりシンポジウム　2020（令和2）年10月
市内企業会場からオンライン開催した「多摩市健幸まちづくりシンポジウムオンライン～多摩市で叶う、新しい健幸！ワーク～」。

国体とオリンピック・パラリンピック

2013（平成25）年9月開催の第68回国民体育大会（国体）は東京都でおこなわれ、多摩市も競技会場を提供しました。多摩市では2010（平成22）年より「スポーツ祭東京2013東京国体多摩市実行委員会」を立ち上げ、市民ボランティア、関係機関、団体、学校等が連携して準備を進めました。大会中は、陸上競技場がサッカー競技・少年少女スポーツサッカーの会場となり、総合体育館がハンドボール競技とスポーツ吹矢の会場となりました。大会期間中にはのべ2万人の人が訪れ、ゆりーとやハローキティなどがもてなしました。競技会場となった陸上競技場と総合体育館には記念碑が設置されました。

サッカー競技（成年男子）　2013（平成25）年
サッカー競技は、成年男子、女子、少年男子の3種別があり、多摩市では市立陸上競技場において、成年男子種別の熱戦が展開された。9月29日から10月1日までの3日間、計6試合がおこなわれ、東京男子は第2位となった。

ハンドボール競技　2013（平成25）年
ハンドボール競技は、成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の4種別があり、多摩市は少年男子および少年女子の競技会場となった。10月3日から10月6日までの4日間の日程で総合体育館にて実施された。

記念碑（左：陸上競技場、右：総合体育館）
2013（平成25）年設置
競技会場となった総合体育館、陸上競技場には記念碑が設置された。

2021（令和3）年夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が当初の予定より1年延期されて開催されました。市内のオリンピック聖火リレーの公道走行は中止となりましたが、7月24・25日に市内がコースとなっているオリンピック自転車競技ロードレースが開催され、世界中のトップレーサーが市内を駆け抜け、迫力あるレースが展開されました。また、多摩市はアイスランド共和国オリンピック選手団の事前キャンプ実施に関する覚書の締結を契機に2019（令和元）年12月に同国のホストタウン（国の制度）として登録。大会が開催された2021（令和3）年7月18～25日にオリンピック選手団8名（水泳・陸上競技）、8月16～21日にパラリンピック選手団16名（陸上競技・自転車競技（ロード）・水泳）の事前キャンプを相次いで受け入れました。

（多摩市くらしと文化部スポーツ振興課、オリンピック・パラリンピック推進室）

自転車競技ロードレース　女子レースの様子
2021（令和3）年7月25日
多摩東公園へ向かう車列。馬引沢第三公園交差点付近。

多摩市内のコース図

駐日アイスランド大使による講演　2021（令和3）年3月
コロナ禍の中、ホストタウン交流事業として開催された、国際理解講座（主催：多摩市国際交流センター、後援：多摩市）にて、ステファン・ホイクル・ヨハネソン駐日アイスランド大使が、アイスランドの自然や文化、社会的な取り組みなどについて講演をおこなった。

アイスランド共和国パラリンピック選手団・陸上競技チーム
2021（令和3）年8月
市立陸上競技場にて撮影。写真左から3人目がパトレクル・アンドレス・アクセルソン選手（視覚障がい）、同5人目がベルグルン・オスク・アーダルステインスドッティル選手（脳性まひ）

新型コロナウイルス感染症対策の取り組み

新型コロナウイルス感染症は、市民生活のあらゆる分野に甚大な影響を及ぼしています。

多摩市では、多摩市医師会と連携したPCR検査センターの設置、市独自のPCR検査の実施などの感染拡大防止に取り組んだ他、医療機関や福祉事業所の感染症対策への支援、家計や売上に影響のあった世帯や個人、事業者への相談や助成、就労支援など、医療や市民生活の維持のための支援をおこないました。また、広報や公式ホームページ、YouTube等を活用した分かりやすい情報提供により、安心の確保に努めているほか、キャッシュレス化の支援、GIGAスクールの推進、市民の発表や交流の場を確保する「多摩市ONLINE文化祭」の開催など、新しい生活様式に対応するための施策も進めています。

ワクチンの接種では、これまでにない規模での接種のために、医療機関との緊密な協力体制を構築し、市内3ヶ所の集団接種会場の設置、市内医療機関での個別接種の実施など、希望者への迅速な接種に向けて注力しています。

2021（令和3）年8月現在、ワクチンの接種が進む一方で、変異株の影響で感染が拡大しており、市では、市民生活への影響を抑えるための取り組みを、継続して進めています。（多摩市企画政策部企画課）

みんなでつくる多摩市ONLINE文化祭　2020（令和2）年
これまでにない取り組みに1,000人以上が参画、視聴数は2万2,000回を超えた。

多摩市デジタルアーカイブ

PCR検査の様子 2020(令和2)年
多摩市は多摩市医師会と連携し、「PCR検査センター」を設置した。

多摩市デジタルアーカイブ

GIGAスクール構想の推進 2021(令和3)年
令和3年4月から、タブレット端末が1人1台配布され、デジタル教科書や
専用のアプリケーションを用いて、新しい形の授業や行事がおこなわれている。

市民主体のまちづくり

多摩市では、旧来から住んでいる人々に加え、多摩ニュータウン開発以降に様々な地域から集まった人々が、コミュニティを築き、住民運動や地域活動、文化活動が生まれ、生き生きとした暮らしを育んできています。

コミュニティセンターの運営や青少年問題協議会のような地域コミュニティづくりの活動をはじめ、子育てや福祉、環境など様々な分野での市民活動が活発であり、多ｚくのNPO法人も活動しており、子どもから大人までの幅広い世代のスポーツ活動も盛んです。また、市民手作りの「多摩ニュータウン野外コンサート」や団地の主婦たちが中心となってスタートした地域文庫活動のような文化活動は、「自らの地域を自らの手で豊かなものにしていこう」という、能動的な市民の力により支えられています。こうした活発な市民活動は、多摩市の特徴の一つであると言えます。

これからの50年、私たちの生活を取り巻く状況は、めまぐるしく変化していくでしょう。しかし変わらないのは、市民主体のまちづくりです。これからも、市民と行政が一体となって、持続可能なまちづくりのために取り組んでいきます。（多摩市企画政策部企画課）

コミュニティセンター　2019（令和元）年11月

地域コミュニティの拠点として、地域住民のボランティアで構成される運営協議会において、地域性と創意を生かした運営がされている。

多摩市消防団出初式　2019（平成31）年1月13日

普段は仕事や学業などをしながら、火災や水害時などに消火・警戒・救助活動のため出動するなど地域を守るため消防団員として活動している。

保育園での第九合唱　1974(昭和49)年12月

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市合唱祭　2018(平成30)年7月

多摩市デジタルアーカイブ

三多摩童謡ファミリーコンサート　2007(平成19)年10月

多摩市デジタルアーカイブ

多摩ニュータウン野外コンサート　2019(令和元)年7月

多摩市デジタルアーカイブ

せいせき桜まつり　2017(平成29)年4月

多摩市デジタルアーカイブ

落合夏祭り　2013(平成25)年8月

多摩市デジタルアーカイブ

あたご盆踊り　2013(平成25)年7月

多摩市デジタルアーカイブ